



平成16年 広報

にかほ

編集・発行 / 秋田県仁賀保町役場

11/1

No. 1389
毎月1日・15日発行



今月の主な内容

- 地域ぐるみではくむ青少年 P 2 ~ 5
- 台風被災農家の町税減免について P 6
- 仁賀保地区消防組合設立35周年 P 9
- まちの話題 / ぶな植樹会ほか P10 ~ 11
- 秋田^{アキ}秀子さんの笑顔に会いたい P12

すくすく10か月

きょうはスマイルで10か月児健診です。まずは体重測定から。体重計に上手にお座りしたので、みなさんにほめられました。

すくすく大きくなって、お母さんもうれしそう。お友だちもたくさん来てるし、離乳食も試食できて、健診って楽しいね。

特集 地域ぐるみではぐくむ

青少年

いじめや非行、少年犯罪など、子どもをめぐるさまざまな問題が全国的に深刻化しています。

しかし、青少年が関わった凶悪犯罪が毎日のようにマスコミをにぎわせても、この地域に暮らす私たちは、どこか「対岸の火事」と考えてはいないでしょうか？

幸い、仁賀保地区ではほとんどと言っていいほど少年犯罪は発生していません。しかし、青少年を取り巻く社会の変化は、周囲の大人の実感を超えるレベルで、あるいは気づかない部分で、子どもたち一人ひとりの成長過程に影響を及ぼしているかもしれません。

十一月は「全国青少年健全育成強調月間」です。この機会に、地域の青少年たちに目を向けてみませんか。ここでは、社会の常識やルールを身につける大切な時期、思春期の少年たちの成長について考えます。

文中の「少年」という表現は、特に説明がない限り、20歳未満の男女を指します。

最近の子どもは変わった？

「最近の子どもは変わった」とよく言われますが、それには、子どもを取り巻く社会全体の変化が大きく影響しています。

いま、日本の社会は、「少子高齢化」という人口構造の急激な変化のもと、情報化や国際化、消費社会化などが進展しています。

こうした社会の変化は、家庭、学校、職場、地域など、子どもたちが成長する生活環境にも、さまざまな影響を及ぼしているのです。

例えば、いまの子どもたちは、少子化で兄弟姉妹や同世代の子どもが少ないため、子ども同士が切磋琢磨したり、年下の子の面倒をみたりする機会が減っているとされています。

また、インターネットや携帯電話の普及は、「いつでも」「どこでも」必要な情報を得ることを可能にし、子どもたちのコミュニケーションの輪を広げる利点の一方で、青少年に悪影響を与える恐れがある情報との接点をもたらし、出会い系サイトなどの新たな問題を生じさせています。

大人社会の風潮や 価値観の揺らぎ

「子どもは社会を映す鏡」という言葉があるように、今日の青少年の問題には、大人の規範意識やモラルの低下、そして社会全体の価値観の揺らぎが強く反映していると言われています。

核家族化や都市化が進み、家族間や地域での人と人とのつながりが薄れてきている中で、家庭における親の教育力の低下や、親による児童虐待などの問題も生じてきています。

子どもが情緒や知恵を育み、人格を形成していくのに、生まれ育つ環境が大きく影響を及ぼすことは言うまでもありません。

社会の大きな変化の中で、子どもを取り巻く大人の在り方も変わってきているようです。

多様な体験や 交流機会の不足

今日の子どもたちは、その発達過程において、かつて得られたような豊かな生活体験などの機会が不足しており、こうしたことが子どもたちの成長に様々な影響を与えています。



少年時代に、自然体験や職場体験などの活動することは、自然や社会に対する視野を広げたり、多様な人々との交流を深めたりするなど、子どもの成長の糧となります。そして、そうした経験のなかで他者を理解し、他者に働きかけたり、自分の目的意識や意欲をもつて自発的に活動したりするなどの能力を身につけていくことができるのです。

このように、体験活動は子どもの社会的自立を促進する重要な役割を果たします。学校と地域の大人や企業などが連携・協力し、職業体験や自然体験、ボランティアなど、体験活動の場を提供していくことが重要となっています。

運動能力は低下傾向に
少年期の「走る」「跳ぶ」「投げる」等の基礎的運動能力は、ほとんどの年齢段階で低下傾向にあります。食生活の問題として、欠食の習慣化が顕著です。

仕事は長続きしない？

近年で最も失業率が低かった平成2年と比べ、15〜29歳の失業率の増加が特に目立ちます。

また、30歳未満の青少年労働者の離職率は約23%で、全労働者の離職率を上回っています。

学校卒業者について、中学校卒業者の7割以上、高校卒業者の5割以上が、就職後3年間のうちに離職しています。

凶悪犯罪が深刻化 被害・加害とも

少年が被害者となった刑法犯の認知件数及び凶悪犯の被害件数は、総数では2年連続で減少したものの凶悪犯は増加し、特に性犯罪被害が増えています。

一方、刑法犯で検挙された少年は、その7割が初期型非行（万引き、自転車・オートバイ盗等）によるもの。成人を含めた街頭犯罪（ひったくり、路上

内閣府「**青少年白書**」より

平成15年データに見る

青少年の現状

強盗、車上ねらい等）の総検挙人員に占める少年の割合は66%と依然高水準となっています。
凶悪犯（強盗、殺人等）で検挙された刑法犯少年は2千2百人を超え、前年に比べ約11%増加しました。

問題行動 データ上は減少しているが…

覚せい剤事犯で検挙された少年は前年に比べ3割近く減少し、シンナー等の乱用による検挙者は逆に増加しています。

性の逸脱行為・被害で補導・保護された少年は、前年比で約4%減少しました。

警察が補導した不良行為少年は、喫煙や深夜はいかがい多数を占め、家庭内暴力、不登校、家出は前年より減少しています。

それぞれの取り組み

大人が変われば
子どもも変わる

青少年健全育成町民会議

会長 佐々木耕二さん

最近「自子主義」という造語を目にしました。「自分の子さえよければいい」という親の姿勢、現代の風潮を表しているそうです。

少子化、核家族化が進む現代だからこそ「自子主義」ではなく、地域の子どもたちに広く目を向ける視点が必要ではないでしょうか。私どもの活動の合言葉は「地域の子どもは、地域で守り育てる」。その環境づくりのために、「あいさつ運動」「夜間パトロール」

自分たちの声で
非行や街頭犯罪を防ごう

仁賀保高校・象潟警察署

「ねむの花サポートチーム」

犯罪や非行防止のために、以前から独自の活動に取り組んでいた仁賀保高校と、街頭犯罪の抑止強化に乗り出していた象潟警察署が協力し、昨年九月に発足したのが「ねむの花サポートチーム」です。

現在、活動に参加している生徒は十五人。象潟警察署の少年保護

防 犯



月一回の夜間パトロール。駅をスタートし、コンビニ、スーパー、公園などを巡回しました。最近では青少年の問題行動にはほとんど遭遇しないそうです

「命の尊さ」や「生き抜く力」を伝え続けていくことが、私たちの役目だと思っています。

育成委員と協力して金浦駅前を中心に街頭での宣伝活動等を行っており、その成果か、自転車盗などの初期型非行は、ほとんど見られなくなったそうです。

活動を通じて生徒からは、「チームワークをはじめ、様々なことを学んだ」という感想の一方で、「自分たち高校生と大人の考え方が大きく違ったことに驚いたが、話し合うことでお互いを理解し合えてよかった」との声もありました。

仕事のやりがいは？

仁賀保中学校
「職場体験活動」



仁賀保中では毎年三年生が職場体験活動に取り組んでいます。今年度は、町内外の三十二の小売店や飲食店、公共施設などの協力を得て行われました。

視野を広げ
自らを見つめ直す

中学生の国際交流

この十数年で、中学生の国際交流の機会は飛躍的に増加しました。米国の姉妹都市シヨウウニ市との中学生の相互派遣は、今年で十五年目を迎えました。国籍や言葉の違いを乗り越えて異文化を理解することは、国際的な視野を身につける貴重な機会であり、同時に自らの日常生活や地域の特色を客観的に見つめ直すことにもつながっているようです。

また、平成三年度からは外国語

体 験

体験を通じて学んだこととして、生徒たちが挙げたのは次のようなことです。

- あいさつの大切さ（礼儀）
- 笑顔と気配り（サービスマインド）
- 仕事の正確性と効率（責任）
- 雑用の大切さ（チームワーク）
- 予想以上に体力が必要（健康）
- 実際に任せられた仕事は全体のほんの一部でしたが、職場の厳しさと緊張感を十分に味わったようです。社会活動を自分のこととして考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

指導助手（ALT）が町内の中学校で英語の指導を行うようになり、実践的な英語の習得はもろろん、日常的に海外の文化や習慣を肌で感じる事ができています。



10月12日に渡米、7日間に亘って交流を深めた第15回姉妹都市訪問団のみなさん

少年・少女弁士 「安心・安全の社会」を語る!!

10月13日、象潟中学校で仁賀保地区少年弁論大会が開催され、3部門で各校の代表12人が熱弁を振りました。町内生徒の受賞は次のとおりです。

【防犯の部】

優秀賞 山本 佐貴（仁中3年）
優良賞 佐藤 明菜（釜中2年）

【防火の部】

最優秀賞 加納 拓哉（仁中2年）
優良賞 佐藤 理奈（釜中2年）

【交通の部】

最優秀賞 柏倉 聡美（仁中1年）
優良賞 佐藤 浩人（釜中2年）



仁賀保中のみなさん



釜ヶ台中のみなさん

「あなたの心のホームはどこですか」

平成16年度仁賀保地区少年弁論大会より

山本 佐貴さん（仁賀保中3年）

ここ数年の大きな社会現象の一つとして、少年犯罪が凶悪化・低年齢化していると感じる人は少なくありません。

私がここで、考えたいのは同じ少年犯罪と言われるものでも、非行問題ではなく、「凶悪犯罪」についてです。万引き、深夜はいかい、飲酒、喫煙などの非行は、徐々に問題が大きくなり、表面化するのに対し、「凶悪犯罪」というのは、一気に爆発するかのよう

に、しかも取り返しのつかない事

件になっていきます。皆さんの記憶に新しい事件に長崎少女殺害事件があるはずですが、わずか11歳の子が同級生を殺害するという事件がありました。先程も述べましたが、少年犯罪の低年齢化・凶悪化とわかってい

ますが、まさか小学生がこのような事件をおこすなんて考えられませんが、インターネットの掲示板に嫌

なことを書かれてトラブルになった」と少女は言っています。加害

者と被害者は交換日記をするくらい仲のよい友達だったといいますが、それがなぜ、こんな事件になるのでしょうか。

私たちは心をもっています。心をもつて他人とのコミュニケーションを

図りながら、自分の「居場所」を確認しているのではないかと思います。そのコミュニケーションが上手にとられなければ、なかなか自分の「居場所」は見つけられませんが、

例外、私たちは自分で思っている以上に自分を中心に物事を見てしまっていると私は思います。毎日の生活の中には、自分の気に入らないことも数多くあるのではないのでしょうか。しかし、そんな中

でも、他人を思う柔軟な心を持ちながら、よい人間関係を築いていかなければなりません。

ある新聞の社説によると、加害少女が唯一安心して表現し、存在感を確認できる「居場所」は交換ノートとインターネットだったといっています。被害者の行動は、その「居場所」への侵入者にとられ、怒りを覚えて殺意を抱

いたのではないかとありました。文字やインターネットで本当のコミュニケーションをし、よい人間関係が築けるでしょうか。

（中略）

私たちは、厳しい現実にもまれながら大人へと成長していきます。そこには、楽しいことや嬉しいこと、自分の存在を認められることも多いですが、苦しいことや辛いこと、自分自身を否定されるようなことも時にはあるはずですが、こうした、人と人の生の触れ合いなしには私たちの成長はありません。

インターネットで自分を開放し、何らかの成長はあるにしろ、私たちは生の声やまなざしの中で、人間関係を円滑に築く能力や感情を身に付けるものだと思います。

直接、相手と向き合うことが苦手と言われていた現代っ子。そんなことを言われている私たちですが、それに甘んじることなく、また、多少の傷つくことも怖れずに生の声でのコミュニケーションを取っていくことが私たちには必要だと思えます。

そして、そこには、本当の私たちの居場所「心のホーム」があるはずですから。

仁賀保地区消防組合設立35周年

記念式典とイベントを開催 / 10月17日



初めての消火器体験?



一日消防署長の加納拓哉君
(仁賀保中2年)



ロープをつたって救助だ!

感謝状が贈られた方々

町内関係者のみ



佐藤恭治さん
(平 沢)

仁賀保町長として昭和44年
県下初の消防組合発足に寄与
され、その後も組合管理者と
して消防行政に尽力されまし
た。



木下貞一さん
(百 目 木)

昭和14年以来、48年間に亘
り消防業務に尽力。昭和58年
からの6年間は、団長として
消防団を統率されました。



板垣金男さん
(室 沢)

昭和23年以来、49年間に亘
り消防業務に尽力。消防団長
のほか、県消防協会の理事や
由利支部長を歴任されました。

こんにちは
お元気ですか

町長 巴 徳雄

吹く風も肌寒くなってきた。
お元気でお過ごしでしょうか。
十月十七日、仁賀保地区消防組
合設立三十五周年記念式典とイベ
ントが行われた。

晴天に恵まれた当日十時、一日
消防署長を任命。選ばれたのは、
本年度、仁賀保地区少年弁論大会
で最優秀賞を受賞した仁賀保中学
校二年、加納拓哉君である。

消防庁舎前広場に集まった子ど
もや町民のみなさんの前で一日消
防署長の点検に続いて、白百合保
育園の鼓笛隊、金浦小学校の鼓笛
隊、平沢小学校の吹奏楽で会場は
一気に盛り上がった。

消防職員の救助訓練の見学や、
庁舎の開放、消防車や救急車の見
学で子どもたちは大喜びである。
更にロープを低く張った救助訓
練の体験、放水体験、応急手当の
体験と続き、最後は元気な「九十
九島太鼓」の演奏と消防車による
赤、青、黄のきれいな放水でイベ
ントは幕を閉じた。

さて、設立以来三十五年、時代
の移り変わりとともに消防行政を
取り巻く環境も大きく変化し、災
害の様態も複雑多様化しているが、
現在は新しい時代に対応できる組
織・体制になっており、名実とも
に三町消防行政の一本化である。

三十五周年を迎え、先見の明を
もって組合設立に努力された先輩
各位、並びに関係各位の長年のご
努力に心から敬意と感謝を申し上げ、
消防の使命の重大さをしっか
りと認識し新たな決意のもと、消
防力の充実強化を図りみなさんの
信頼に応えられるよう努力するこ
とを誓い合い式典を終えた。

これからも消防に対するご理解
とご支援をお願い申し上げます。

お元気で

